

お茶の水女子大学「プロジェクトマネジメント特論」

民間主導による宇宙ビジネスの現状と将来展望 ～Old SpaceからNew Spaceへ 今、何が起きているのか～

講師：小森 光修

元 (株)NTTドコモ 取締役常務執行役員 (CTO)
元 スカパーJSAT(株) 取締役執行役員副社長 (CTO)
現 技術経営士



はじめに

2023年7月5日、「民間主導による宇宙ビジネスの現状と将来展望」と題し、お茶の水大学の院生60名弱を対象に対面で講義を行った。最近マスコミ等で脚光を浴びている「New Space」をテーマとして取り上げた。New Spaceとは、政府主導で進められてきたこれまでの宇宙開発とは一線を画し、異業種からの参入やベンチャー企業等の新興勢力によって進められる宇宙開発を指す。学生には馴染みの薄い分野なので、限られた時間の中で少しでも身近に感じ興味を持ってもらえるよう講義内容を工夫した。私自身、4年前の退職を機に学生に戻り2年間大学に通った経験があり、最近のキャンパス事情をある程度心得ていたことが、講義をする上で役立った。

講義内容

講義内容は大きく2部構成とし、前半を「Old Spaceを振り返る」、後半を「New Spaceを展望する」とした。前半で、まず宇宙産業全体を俯瞰するとともに、日本における民間宇宙ビジネス発展の歴史を振り返った。1985年の通信自由化を契機に始まった衛星ビジネスの概要と、日本の宇宙ビジネスを先頭に立って牽引してきたスカパーJSAT社の変遷について解説した。後半では、New Spaceで特に注目すべき分野を3つに絞り、今、現実に何が起きているのか具体的に紹介した。イーロン・マスクやジェフ・ベゾス等の登場で民間主導の宇宙ビジネスが急拡大し、宇宙産業は歴史的に見て大きな変革期にある。日本でも宇宙開発を目指すベンチャー企業の登場により、これまでになかった動きが起きている。これらの事象について、所謂「鳥の眼、虫の眼、魚の眼」でさまざまな角度から複眼的に捉え考察した。さらに、宇宙ビジネスの特殊性や課題を踏まえたうえで、New Spaceの今後をグローバル視点で展望した。最後に短時間ではあるが講義テーマから少し離れ、会社の人事部門で技術系（理系）社員の採用、育成、人事等の業務に長く携わった自身の職務経験を踏まえ、キャリア・デザインの在り方について考えを述べた。

受講生の反応、自身の感想

講義後のリアクションペーパーで、57件の感想と31件の質問があった。その内容から、宇宙ビジネスへの関心と理解を深めることにいささかなりとも貢献できたという手応えを感じた。授業では時間の関係でキャリアの話を手折ったにもかかわらず、全質問の3分の1がキャリアに関するものとなり、就職活動に関わる学生の関心の高さが伺えた。少しでも役に立てばと思い、質問には1件1件丁寧に回答するよう心掛けた。